

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立明保小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	91人	算数	91人	理科	91人
第5学年	国語	93人	算数	93人	理科	93人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

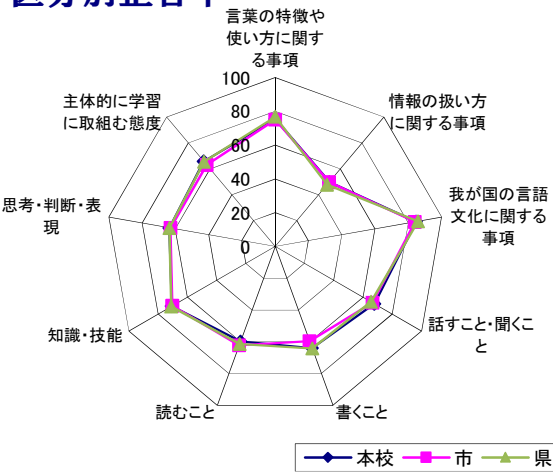
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立明保小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.4	75.1	76.7
	情報の扱い方に関する事項	49.8	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	84.6	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	67.7	66.5	65.5
	書くこと	64.0	59.6	64.2
	読むこと	59.9	62.2	61.5
観点	知識・技能	70.6	70.2	71.1
	思考・判断・表現	63.6	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	65.7	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

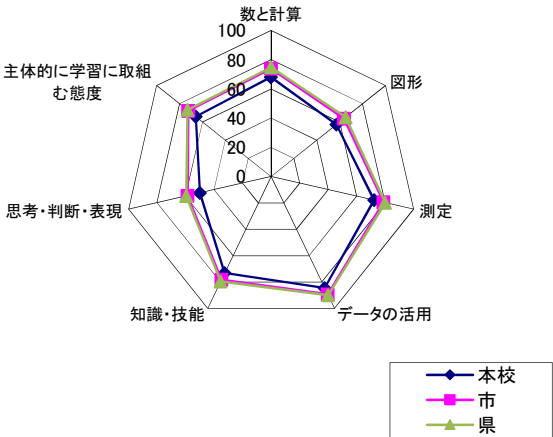
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	領域全体の平均正答率は、県と比べやや低い。 ○ローマ字で表記されたものを正しく読むことがよくできている。 ●第3学年に配当されている漢字を正しく書く・読む設問では、県の平均正答率を上回っているものと下回っているものがある。	・漢字ドリルやAIドリル等を繰り返し活用し、漢字の読み書きに多く触れる機会を設ける。 ・ローマ字の読み書きの定着を図るため、一人一台端末を利用したローマ字入力 の機会を多く設ける。 ・朝の学習や家庭学習において、漢字の読み書きの復習を行い、定着を図る。
情報の扱い方に関する事項	領域全体の平均正答率は、県と比べやや高い。 ○情報と情報との関係について理解し、話し手が伝えたいことの中心を捉えることがよくできている。 ○情報と情報との関係について理解し、要約する設問では、県の平均正答率を大きく上回っている。 ●国語辞典の使い方の理解について、課題が見られる。	・説明文の読み取りでは、段落から重要となる語を見付けて線を引いたり、書き出したりして、段落相互の関係に注意して読み取ることができるようにする。 ・国語辞典を用いて調べる活動をより多く取り入れ、3つの索引に慣れるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	領域全体の平均正答率は、県と比べほぼ同じである。 ○漢字のへんやつくりの理解については、85%程度の児童が正答しており、県の平均正答率とほぼ同じである。	・漢字の学習では、「へん」や「つくり」への意識を高めるため、漢字の構成を意識できるように板書や掲示を工夫したり、デジタル教材を活用したりする。
話すこと・聞くこと	領域全体の平均正答率は、県と比べやや高い。 ○話し合いの内容を聞き取ることは、どの設問でも県の平均正答率を上回っており、よくできている。 ●互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめて記述する設問では、県の平均正答率と同程度の約5割であり、やや課題がある。	・「話す・聞く」単元では、児童一人一人に相手の話したいことは何かを考えて聞くことを意識させるとともに、必要に応じて、整理してメモを書くことができるように指導する。 ・日常生活において、話を正確に聞くことの意識付けを図るため、「話し方・聞き方」のポイントについて随時掲示物を確認していく。
書くこと	領域全体の平均正答率は、県とほぼ同じである。 ○自分の考えの理由や事例を明確にして書く設問では、県の平均正答率をやや上回っており、よくできている。 ●2段落構成で文章を書く設問では、県の平均正答率をやや上回っているが、校内正答率は約50%であり、理解が不十分である。	・文章を書く際には、メモを書き出す時間を十分に設ける。そのメモをもとに安心して文章づくりができる授業を展開する。 ・段落の意味や段落同士の関係など、文章を書くために必要な知識や決まりについても再確認する。 ・文章に書き出す際には、自らの考えと理由、事例等に整理し、構成を考えながら文章を書き出せるように指導していく。
読むこと	領域全体の平均正答率は、県と比べやや低い。 ○説明文から中心となる語や文を見付けて要約する設問では、県の平均正答率を約10ポイント上回っており、よくできている。 ●説明文の叙述を基に段落や文章の内容を捉えることに、課題が見られる。	・説明文の読み取りでは、その段落には何が書かれているのか、キーワードを見付け出したり、段落相互の関係に注意して内容を読み取ったりする時間を十分に設け、主体的に取り組める授業を展開する。 ・物語文の読み取りでは、登場人物の言動や心情の変化等の叙述に着目させて、場面ごとの様子を理解できるようにする。 ・朝の読書の時間や家庭学習における音読等の読書活動の充実を図る。

宇都宮市立明保小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.1	73.8	74.8
	図形	57.1	63.7	65.3
	測定	72.3	78.9	80.1
	データの活用	84.6	89.3	90.0
観点	知識・技能	73.1	78.3	79.5
	思考・判断・表現	49.9	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	65.9	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

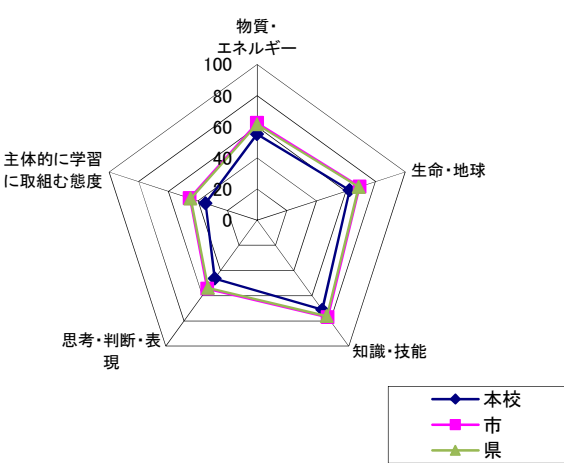
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	領域全体の平均正答率は、県と比べ低い。 ○小数の相対的な大きさについては、理解している。 ○余りのない割り算や真分数同士の足し算については、よくできている。 ●分数の意味についての設問や整数-小数の設問の平均正答率が50%以下で、課題が見られる。	・朝の学習や家庭学習で、基礎的な計算問題の演習に繰り返し取り組ませ、計算力の向上を目指す。 ・分数や小数の計算に繰り返し取り組ませるとともに、ICTや具体物を活用しながら、視覚的に数の概念が身に付くようにする。
図形	領域全体の平均正答率は、県と比べ低い。 ○円の直径についての理解や二等辺三角形の作図の設問では、8割の児童が正答している。 ●円の中心と円周上の2点を結んでできる三角形が二等辺三角形になる理由を説明する設問では、平均正答率が10%未満で、無回答率も高く、課題が見られる。	・デジタル教材や模型を活用しながら、円や三角形、四角形、球等、様々な図形を視覚的に捉え、定義を理解できるようにする。 ・平面図形を作図したり、立体模型を作成したりする中で、直径、半径、中心などの言葉を振り返り、定着を図っていく。
測定	領域全体の平均正答率は、県と比べ低い。 ○道のりを求める問題では、平均正答率が8割でできている。 ●身近にあるものの重さを推察して、適切な単位を使って表す設問では、平均正答率が県と比べ10ポイント程度下回り課題が見られる。	・日常生活の中で、活動時間や集合時刻などの時間を意識させることで、今後も時間の長さに対する感覚を養っていく。 ・身の回りで用いられている様々な単位に興味をもたせ、単位の仕組みについての理解を深めていく。
データの活用	領域全体の平均正答率は、県と比べ低い。 ○棒グラフの読み取りの設問では8割以上の児童が正答しており、よくできている。 ●棒グラフの1めもりの表す数がわかるかを問う設問では、8割以上の児童が正答しているが、県の平均正答率を5ポイント程度下回っている。	・棒グラフの目盛りの付け方や読み方について復習したり、繰り返し取り組ませたりすることで、その特長や用い方の理解につなげていく。 ・複数の棒グラフを組み合わせたグラフについては、身の回りの事象について表すことで、興味関心を高め、理解につなげていけるようにする。

宇都宮市立明保小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	55.2	62.5	61.5
	生命・地球	62.4	69.2	68.6
観点	知識・技能	71.1	77.2	76.3
	思考・判断・表現	46.5	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	34.9	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	領域全体の平均正答率は、県と比べ低い。 ○物の重さは、置き方や形を変えても変化しないことの理解はよくできているおり、平均正答率は県とほぼ同じである。 ○車の動き方が、風の向きや強さによって変わることに関する設問では、8割程度の児童が正答している。 ●電気を通す物と通さない物の理解に関する設問の平均正答率は県平均を大きく下回っており、課題が見られる。 ●方位磁針の針として使えるかどうかを判断し、その理由を記述する設問では、無回答率が高い。	・理科学用語を使って自分の考えを書いたり、話したりする習慣をつけたりすることで、理科の知識の定着、体系付けを図る。 ・予想する、実験する、記録する、結果をもとに問題を解決しまとめる、という学習活動の中で、個で考える時間、意見交換をして問題を解決する時間、それぞれを確保し、理解を深めさせる。 ・児童が実際に実験することに加え、教師がデジタル教材などの映像で視覚的にポイントを示すことで、児童の理解を確かなものにしていく。 ・文章、図、表、グラフを関連付けて考えさせる活動を、授業の中で意図的に展開する。
生命・地球	領域全体の平均正答率は、県と比べ低い。 ○ダンゴムシとショウリョウバッタのすみかに関する設問では、9割以上の児童が正答しており、よくできている。 ○モンシロチョウの幼虫の理解に関する設問では、平均正答率が90%を超えており、よく理解できている。 ●ハウスエンカの育つ順と草たけの関係を読み取る設問での平均正答率が、県と比べ低い。 ●太陽と地面のようすについての平均正答率が低く、課題が見られる。	・理科学用語を使って自分の考えを書いたり、話したりする習慣をつけることで、理科の知識の定着、体系づけを図る。 ・予想する、観察する、記録する、結果をもとに問題を解決しまとめる、という学習活動の中で、個で考える時間、意見交換をして問題を解決する時間、それぞれを確保し、理解を深めさせる。 ・児童が実物を観察することに加え、教師が実物投影機やデジタル教材などの映像で視覚的にポイントを示すことで、児童の理解を確かなものにしていく。 ・文章、図、表、グラフを関連付けて考えさせる活動を、授業の中で意図的に展開する。

宇都宮市立明保小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭での学習については、「家で学校の宿題をしている」と回答した児童の割合は91.2%で9割を超えており、継続した家庭学習の習慣化がうかがえる。「平日30分以上勉強している」と回答した児童の割合は87.9%で、内容においても、6～7割の児童が、「復習をしている」、「間違えた問題について勉強をしている」、「宿題の他にも勉強している」と回答しており、家庭学習への意欲の高さがうかがえる。

○教科の学習については、「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは辞書を使って調べている」の質問に対し、肯定的回答をした児童の割合が80.3%で、市の割合を20.2%、県の割合を16.7ポイント上回っており、辞書の活用が習慣化していることや自主的に学習に取り組み、課題解決学習の基礎が身に付いていると考えられる。また、「算数の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている」の質問に対し、肯定的回答をした児童の割合が73.7%で、市や県の割合を3割程度上回っており、「算数の授業で問題のとき方が分かるようにノートに書いている」の質問に対し、肯定的回答をした児童の割合が89.0%で、これも市や県の割合を3割程度上回っており、算数の学習の面白さや大切さを実感し、意欲的に学習に取り組んでいることがうかがえる。

○家での生活については、「毎日、朝食を食べている」や、「早ね、早起きを心がけている」の質問については、肯定的回答をした児童の割合がそれぞれ80.0%、83.5%で、市や県の平均から約5ポイント高く、基本的な生活習慣の定着が図れていることが分かる。また、「家の人と学校のできごとについて話をしている」の質問についても、肯定的回答をした児童の割合が91.2%と高く、市の割合を5.1ポイント、県の割合を7.1ポイント高い結果となり、家の人と良好な関係にあることが分かる。

●授業の様子については、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の質問に対し、「どちらかといえばいいえ」、または「いいえ」と回答している児童の割合が50.6%と、市や県の平均を2.7～3ポイント上回っており、発表に対して苦手意識をもっている児童がやや多い。意欲的に意見を発表する指導が引き続き必要であると考えられる。

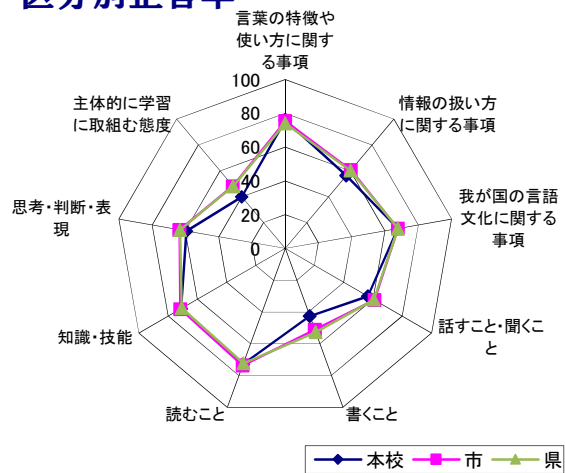
●読書については、「1か月に、何冊くらい本を読みますか」の質問に対し、「1～2さつ読む」または「読まない」と回答した児童の割合が38.5%で、市の割合を10.2ポイント、県の割合を10.5ポイント上回っており、読書量の少ない児童がやや多いことが分かる。朝の読書の時間や図書室の活用などを行い、これまで以上に意識して指導していきたい。

●社会的事象については、「新聞を読んでいる」の質問に対し、「ほとんどまたは全く読まない」が81.3%と、8割の児童が読んでいないことが分かる。情報化社会が進行し、家庭でもテレビやオンラインニュースを活用している実態もあることから、新聞に携わる機会が減っているのも事実だが、授業の中で新聞に触れる機会を作り、児童が新聞に興味をもつような支援を行っていきたい。

宇都宮市立明保小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	75.9	75.4	74.1
	情報の扱い方にに関する事項	56.3	60.5	60.2
	我が国の言語文化にに関する事項	67.7	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	56.6	61.0	60.7
	書くこと	42.5	51.2	52.8
	読むこと	72.9	73.7	72.4
観点	知識・技能	71.1	71.7	70.6
	思考・判断・表現	59.4	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	40.0	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

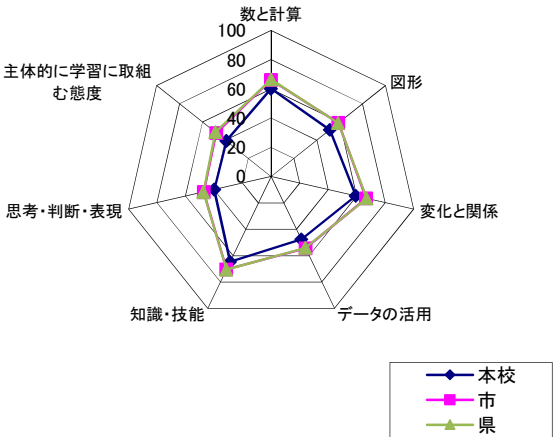
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	領域全体の平均正答率は、県と比べやや高い。 ○第4学年に配当されている漢字を正しく読む、正しく書くことがよくできている。朝の学習に学校全体で取り組んでいる漢字ステップアップの成果であると考えられる。	・今後も漢字の繰り返し練習を推奨し、漢字ステップアップを活用して、定着を図れるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	領域全体の平均正答率は、県と比べ低い。 ○説明文で情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約することが、よくできている。 ●情報と情報の関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話すことに、課題が見られる。	・記述式への回答は、正答・誤答に比べて、無回答の割合が高い。短文を書く指導を多く取り入れるようにする。 ・情報と情報の関係を理解する活動は定着しているのので、理由や事例を挙げる学習活動を取り入れ、社会科など他教科とも関連させながら、指導を工夫していく。
我が国の言語文化にに関する事項	領域全体の平均正答率は、県とほぼ同程度である。 ○ことわざの意味を知り、正しく使うことができている。4学年でのことわざの学習が身に付いていると考える。	・今後も言葉の学習では、学習方法を工夫し、児童の興味を高め定着を図れるようにする。
話すこと・聞くこと	領域全体の平均正答率は、県と比べ低い。 ○話の中心を明確にするための話し手の工夫や司会の役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目して、考えをまとめることができている。 ●話し手が伝えたいことの中心をとらえることには、課題が見られる。	・今後も友達の意見を聞くときには、自分の意見との相違点をはっきりさせ、それを踏まえて自分の意見が発表できるように働きかける。 ・国語の時間だけでなく、日常生活においても、話の内容や中心を落とさずに聞き取ることができるよう、「聞く」ポイントや心構えについて指導していく。
書くこと	領域全体の平均正答率は、県と比べ低い。 ●文章を書くことは、全てのの問題において県や市の平均正答率よりも低い。また、無回答の児童の割合が高く、課題が見られる。	・行事の後などの作文や日記など文章を書く機会を設け、条件を与え、段落を意識した文が書けるように指導する。 ・自分の意見とその理由や根拠をはっきりさせて書くことができるように、日常のノート指導でも具体的に働きかけていく。
読むこと	領域全体の平均正答率は、県とほぼ同程度である。 ○説明文の内容を読み取ることができている。 ●物語の内容を読み取ることの登場人物の気持ちについて、叙述を基にとらえることは、課題が見られる。	・今後も説明文の読み取りでは、段落相互の関係に注意して内容を読み取る学習を展開する。 ・物語文の読み取りでは、登場人物の気持ちを行動や台詞など、教材文の叙述に着目させて考える学習を重点的に指導していく。 ・日常の読書活動を推進していく。

宇都宮市立明保小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	60.2	66.1	66.4
	図形	51.3	58.9	58.8
	変化と関係	59.4	66.6	67.0
	データの活用	47.6	54.4	54.2
観点	知識・技能	64.7	70.4	70.6
	思考・判断・表現	39.9	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	39.2	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

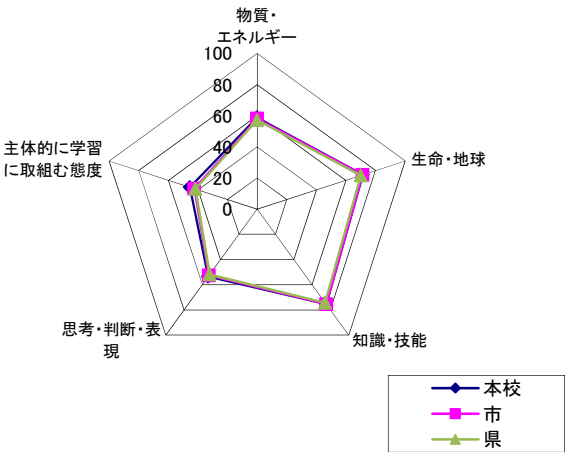
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	領域全体の平均正答率は、県と比べ低い。 ○億と兆・がい数の表し方の設問では、平均正答率が県や市の平均とほぼ同じである。 ●わり算の設問や、わり合いをみて答えを求めるための式をたてる問題では、県の平均より大きく下回っている。	・朝の学習や家庭学習で基礎的な計算問題に取り組み、正確な答えを導くことができるよう継続指導する。 ・わり算や立式でつまづく傾向が見られるので、わる数やわられる数の関係や文章から必要な情報を得る問題などに取り組み、復習する。
図形	領域全体の平均正答率は、県と比べ低い。 ○辺の長さや図形の設問では、平均正答率が県とほぼ同じである。 ●直方体に平行な辺を答える問題や平行四辺形の作図では、県の平均正答率を大きく下回っており、課題が見られる。	・各々の図形の特徴を、復習などを通して確認する。 ・基礎的な問題を継続的に取り組むとともに、応用的な問題にも取り組む。
変化と関係	領域全体の平均正答率は、県と比べ低い。 ○伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める設問では、県の平均正答率とほぼ同じである。 ●簡単な場合についての割合の設問では、県平均正答率より約10ポイント下回っており、無回答率も高い。	・朝の学習の時間や家庭学習で、分配の法則や四則混合など基本的な計算問題に取り組み、正確な答えを導くことができるよう反復練習を行う。 ・立式の前に必要な情報に線を引いたり、図や表にまとめる活動をし、問題の場面を想像しやすくする。 ・テストや教科書の問題の中で、解く時間を意識させる指導を行う。
データの活用	領域全体の平均正答率は、県と比べ低い。 ○折れ線グラフから変わり方の読み取りや、必要なことの読み取りをする問題では、県の平均正答率とほぼ同じである。 ●二次元表から必要な情報を読み取る力が低く、また無回答率も高い。	・社会科などの資料活用の場面で、グラフや表のデータ活用を意図的に行う。 ・計算スキルなどの補充問題を用いて、繰り返し解き直すことで、データの読み取り方を身に付けさせる。

宇都宮市立明保小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	58.8	58.1	57.2
	生命・地球	71.3	71.1	70.0
観点	知識・技能	75.5	75.5	74.4
	思考・判断・表現	53.6	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	45.5	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	領域全体の平均正答率は、県と比べやや高い。 ○電気のはたらきの回路を作図する設問では、県の平均正答率よりも10ポイント以上高く、よくできている。 ○物の体積と力では、閉じ込められた空気の状態を説明する設問で、県の平均正答率よりも5ポイント以上高い。 ○温度による体積の変化を記述する設問では、県の平均正答率よりも10ポイント以上高く、理解の定着が見られる。 ○金属の温まり方について、よく理解している。 ●水を加熱する実験で、予想が正しかった場合に得られる実験結果を構想する設問で、県の平均正答率よりも5ポイント以上低く、課題が見られる。	・学んだことをキーワードを使って自分の言葉で書くようにしたり、知識として必要な語句を練習したりし、書く力を高める。 ・実験の様子や変化の様子の記録をしたり、教科書やタブレットを活用して正しい知識を確認したりする。 ・必要に応じて、動画等を見て実験や結果を確認し、知識の定着を図る。
生命・地球	領域全体の平均正答率は、県と比べやや高い。 ○動物の1年間のようすに関する設問では、県の平均正答率よりも5ポイント以上高い。 ○気温を測る条件の理解に関する設問では、県の平均正答率よりも5ポイント以上高い。	・学んだことをキーワードを使って自分の言葉で書くようにしたり、知識として必要な語句を練習したりし、書く力を高める。 ・観察結果から共通して理解すべき事項を改めて整理したり、タブレット等を活用して共通理解を図ったりし、基礎・基本的な内容の定着に努める。

宇都宮市立明保小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」と回答した児童の割合は、77.4%で、市の平均を大きく上回っている。学校として家庭学習強化週間を設定したり、学年に応じた家庭学習を推奨してきた成果が表れていると考えられる。今後も、学年で取り組んでいる「家庭学習カード」を活用しつつ、個々の指導に努めたい。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童の割合は、市の回答を上回った。グループで話し合う機会を多く設定してきたことや、親和的な学級づくりを進めてきた成果が表れていると考えられる。今後も、グループ活動を増やし、共に学ぶ指導を充実していきたい。

○「学校のきまりを守っている」と回答した児童の割合は、100%であった。「明保小のよいこ」としてきまりを児童に分かりやすく示したことや、「挨拶・名札・靴そろえ・返事」を繰り返し指導してきた成果が表れていると考えられる。

●「学校の授業以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどのくらいの時間、勉強をしますか」に「1時間以上、2時間より少ない」と回答した児童が多く、市の回答と同程度である。しかし、「30分より少ない」と回答した児童の割合が18.3%で、市よりも7.5ポイント高い。学校で推奨している1時間に近づくよう、個別での指導に努めていきたい。

●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり聞いたりしますか(テレビゲームはのぞく)」に「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームをふくむ)をしますか」に「1時間以上2時間より少ない」と回答した児童が多く、市の回答と同程度である。しかし、「4時間以上」と回答した割合は、2割以上になり、長時間触れている児童が多くいることが分かる。再度1日の時間の使い方を見直し、時間制限などのルールを設定を、家庭と連携を図りながら節度をもった使い方の指導をしていきたい。

宇都宮市立明保小学校 (第4・5学年共通)
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の定着	宮子学カステップアップシートやAI型学習ドリルの活用を年間通して実施している。 家庭学習強化週間の設定や家庭学習啓発資料の配付を通して、家庭との連携を図り、主体的に家庭学習に取り組めるようにしている。 少人数指導や習熟度別学習など、学習形態を工夫することで、個に応じた指導を行っている。	4・5年生ともに、前学年に配当されている漢字の読み書きや計算など、基礎的な知識や技能に関わる問題における平均正答率が、県や市の平均よりも5ポイント以上低いものがある。 「家で勉強するときに、だいたい同じ時こくに取り組むようにしている」に肯定的に回答した児童の割合は、4年生は67.1%、5年生は60.2%で、県や市の平均とほぼ同じか、やや低い。「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」への肯定的回答は、4年生が70.4%、5年生が77.4%で、ともに県や市の平均よりも10ポイント以上高い。
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の工夫・改善	授業の導入では課題を明確にし、展開ではソーシャルディスタンスの確保に留意しながらペアやグループで課題解決を行い、終末では学習のまとめや振り返りを行うことで、学習内容の定着を図っている。	「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」に肯定的に回答した児童の割合は、4年生は76.9%で県や市の平均とほぼ同じ、5年生は89.3%でやや高い。また、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に肯定的に回答した児童の割合は、4年生は72.7%で県や市の平均とほぼ同じ、5年生は89.3%で約10ポイント高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
質問紙調査において、「家で、自分で計画を立てて勉強している」に肯定的に回答した児童の割合が、4年生は66.0%、5年生は68.8%で、ともに県や市の平均よりも3ポイント程度低い。また、「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」については、本校の目標とする時間に達していない児童の割合が、4年生は約10%、5年生は約50%いる。	家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	家庭学習に継続的に取り組むことができるよう、「家庭学習の進め方」等を活用しながら計画の立て方や内容についての指導を定期的に行ったり、「家庭学習カード」に取組内容や時間を記録させたりする。また、家庭との連携を図れるよう、啓発資料等を活用して保護者の意識を高められるようにする。 関心意欲を高める授業を工夫し、家庭での学びにつなげるよう働きかけをする。
教科に関する調査において、いくつかの情報を基に整理して書くような記述式設問における正答率が、4年生は県の平均とほぼ同じ、5年生は低い傾向にある。また、質問紙では「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」という設問に肯定的に回答した児童の割合が約60%あり、学力層の差も大きい。	条件に応じて自分の考えを書く活動の充実	様々な機会を捉えて、自分の考えを端的に記述する活動や、複数の資料から目的に合った情報を抜き出してまとめたり、メモを基に文章を書いたりする活動を取り入れていく。また、自分の考えを書く際に、字数や使用しなければならない語句の条件を段階的に増やすなどの提示の仕方を工夫し、条件に合わせ、自分の考えをまとめて記述する力を養っていくようにする。さらに、始めから完璧な解答を求めずに、児童に寄り添いながら思考の過程を励ますことで自信をもたせたり、友達のよい文章を提示して参考にさせたりし、諦めずに挑戦する意欲を高めるようにする。